

THE ISHINOMAKI
PORT 50 TH
ANNIVERSARY

石巻港開港50周年記念誌







石巻港開港50周年記念誌
目次

石巻港開港50周年を迎えて	1	I 石巻港のあゆみ	16
港湾管理者 宮城県知事 村井嘉浩		1 石巻港の歴史	17
石巻港開港50周年記念誌発刊に寄せて	2	2 大規模災害を乗り越えて	33
石巻港整備・利用促進期成同盟会 会長 石巻市長 亀山紘		3 三港統合と新たな取り組み	101
お祝いの言葉	3	II 石巻港開港50周年記念企画「座談会」	112
石巻港企業連絡協議会 会長 音羽徹		III 功労者表彰式	128
写真で見る石巻港	4	資料編	132
		あとがき	195

石巻港開港50周年を迎えて



港湾管理者
宮城県知事 村井 嘉浩

石巻港は昭和42年の第一船入港以来、ここに開港50周年を迎えました。

石巻港の歴史をひも解きますと、古くは旧北上川の河口港として始まり、藩政時代には江戸への米穀の積出港として繁栄しました。戦後は、船舶の大型化に対応するため、昭和35年に旧北上川河口西側の釜地区において工業港の建設に着手し、昭和52年に大曲地区を編入して現在に至っております。今日の石巻港の繁栄の礎を築いた先人の御労苦と、それを支えた地元石巻市や東松島市の皆様の御努力に対し、深く敬意を表します。

現在、石巻港の背後地には、木材関連、食品飼肥料、製紙、鉄鋼、造船等多数の企業が立地しており、これらの企業が原材料や燃料を輸入する際などに大いに利用され、地元石巻市を始めとした県北部の拠点港として、地域経済の発展に大きく貢献しております。

東日本大震災では壊滅的な被害を受け、雲雀野地区が震災ガレキ処理の拠点になったことは記憶にも新しいところですが、震災後に、国から国際バルク戦略港湾に指定された鹿島港や釧路港の連携港として位置づけられたほか、平成24年には、仙台塩釜港や松島港との統合により「国際拠点港湾仙台塩釜港石巻港区」となるなど、国・県・地元地域が一丸となって震災復興に精力的に取り組んでまいりました。

震災から7年1カ月が経ち、被災した港湾施設等の復旧や新たな防潮堤の整備が順調に進んできております。また、最近では、大型クルーズ船が寄港し、港湾利用においても明るい話題が提供され始めております。

県といたしましては、これまでの皆様の取組に対し、改めて感謝と敬意を表すとともに、石巻港の震災からの早期復旧と賑わい創出に向け、引き続き、皆様とともに全力で取り組んでまいります。

結びに、震災からの復旧・復興にあたり、国内外からお寄せいただきました多大なる御支援への感謝を申し上げますとともに、開港50年を迎えた石巻港の今後益々の御発展を祈念いたします。

石巻港開港50周年記念誌 発刊に寄せて



石巻港整備・利用促進期成同盟会 会長
石巻市長 亀山 紘

石巻港は、今年で開港50周年の節目の年を迎えました。

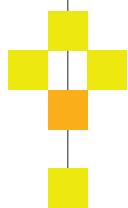
昭和42年の開港以来、石巻地域並びに宮城県北部の経済・産業活動の拠点として発展して参りましたが、これもひとえに、港湾立地企業様をはじめ、整備・利用促進に携わられました関係者の皆様や地元住民による御尽力の賜物と、深く感謝申し上げます。

平成23年に発生した東日本大震災により、石巻港は甚大な被害を受け、一時は取扱貨物量が大幅に減少しましたが、地域をあげて復旧・復興事業に取り組み、着実に復興への歩みを進めております。

また、平成24年には仙台塩釜港、松島港と統合一体化し、「国際拠点港湾 仙台塩釜港」と名を改め、東北唯一の国際拠点港湾として、新たなスタートを切りました。

これからの石巻港は、東北地方における紙・パルプ、木材、飼料の生産、供給拠点として、さらなる大型バルク貨物の集積を図り、企業誘致に力を入れていくほか、来年度には外国客船ダイヤモンド・プリンセスの石巻港寄港が決定しているなど、近年大幅に増加する大型クルーズ船の寄港地として、受入環境を充実させ、より一層大きな役割を果たし、宮城・東北の復興のシンボルにしていきたいと存じます。

今後も石巻港が、港湾利用者にとっても、立地企業にとっても、そして市民にとっても大きく拓かれていくことを祈念いたします。



お祝いの言葉



石巻港企業連絡協議会 会長
日本製紙株式会社 常務執行役員石巻工場長兼岩沼工場長
音羽 徹

石巻港が開港して50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

石巻港の誕生は、昭和35年釜地区において工業港建設工事に着手したことに始まり、昭和39年には、新産業都市「仙台湾地区」の指定を受けるとともに重要港湾の指定を受け、県北部の拠点港として整備が進められました。

そして、50年前の昭和42年3月に第1船の「越後丸」が入港を果たし、出入国港の歩みを始めて半世紀、港湾背後地には、木材関連、食品飼肥料、鉄鋼、造船等多数の企業が立地し、石巻圏域だけでなく東北の経済・産業活動を力強く先導する中核的港湾の役割を担ってまいりました。

この間の港勢の発展に尽力されました多くの諸先輩に対し心から感謝申し上げます。

石巻港企業連絡協議会（会員数52団体、従業員等3,100人）は、石巻港背後地に立地する会員企業同士が、互いに協力し合いながら港湾を利用し、産業の振興と貿易の進展に寄与することを目的に昭和47年3月に設立しております。主な活動といたしましては、「経済の変化に即応した、俗にいう使い勝手の良い港湾」を目指して、国、県及び石巻市に対する提言や要請活動等を継続的に行ってまいりました。このような活動も港勢の発展に微力ながら貢献できたものと自画自賛しております。

取扱貨物量も順調に伸び、今後の発展が期待されておりましたその時、平成23年に東日本大震災が発生し、石巻港の港湾施設や立地する企業の工場等が壊滅状態となり、経済活動は停止状態に陥りました。

このような中にあっても官民が一丸となり災害復旧を強力に推進した結果、4月27日には一般貨物船が入港し、その後も外航船も含め続々入港するなど物流機能が徐々に回復していきました。

さらに、平成24年10月に仙台塩釜港・石巻港・松島港の3港が統合し、国際拠点港湾「仙台塩釜港」となりました。

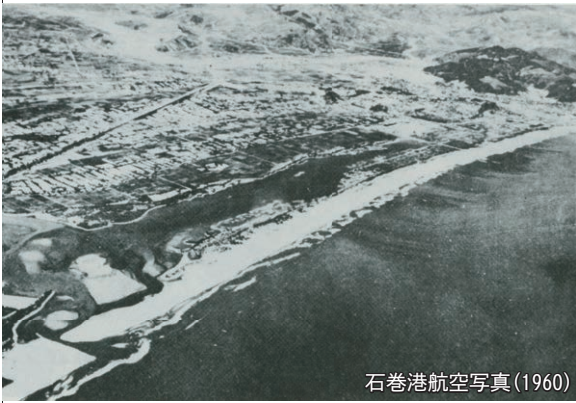
今後、石巻港区は、立地企業を支える物流拠点として発展させることを目指し、木材チップ、石炭、原木、穀物など大型バルク貨物を扱う原材料・燃料の輸入拠点としての役割を担った活動の推進、さらには、大型外航クルーズ船の寄港を活用した観光戦略の展開等官民一体となり取り組む必要があり、当協議会としても関係機関と相協力して必要な事業を実施してまいります。

結びに、石巻港が益々発展することを祈念してお祝いの言葉とします。

写真で見る石巻港



昭和35(1960)年 ~ 平成29(2017)年



石巻港航空写真(1960)



石巻港(内港)河口付近(1960)



石巻港(内港)と
遥かに釜地区(1960)



中島埠頭に係留中の
木材輸入船(1977)



大手埠頭における
内航船の銅料荷役風景(1977)



ニューマチックアンローダー
(1977)



南浜埠頭大型棧橋
における荷役風景(1977)



東北パルプ工場(1960)



石巻港起工式の定礎(1961)



石巻港起工祝賀会(1961)



宮城県沖地震(1978)



石巻港航空写真(1964)



第1船越後丸入港(1967)



石巻港貯木場(1983)

1960~1986



目和埠頭(1983)



中島埠頭(1984)



石巻日和港礎石投入(1985)



南浜埠頭(1984)



石巻日和港定礎式街頭横断幕(1985)



石巻日和港定礎テープカット(1985)



石巻日和港定礎式祝賀会(1985)



石巻港航空写真(1986)



大手埠頭荷役風景(1987)



中島2号埠頭荷役風景(1987)



中島埠頭荷役風景(1987)



南浜大型棧橋荷役風景(1987)



南浜貯木場木材集積風景(1987)



日和埠頭荷役風景(1987)



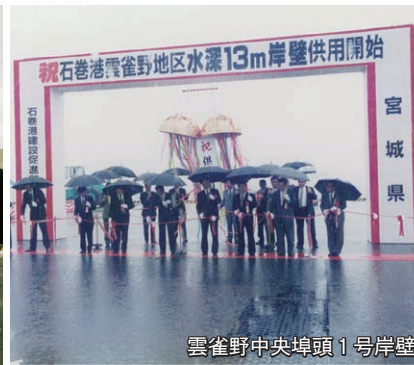
日和埠頭木材荷役風景(1987)



大手埠頭荷役風景(1993)

1987~1999

Ishinomaki 50th





雲雀野地区工事風景 (1999)



雲雀野地区造成工事風景 (1999)



雲雀野北埠頭岸壁建設完了 (2005)



雲雀野地区F区道路完成 (2005)



西防波堤ケーソン制作工事 (2009)



西防波堤地盤改良工事 (2010)



損傷した西海岸線 (2011)



座礁した貨物船 (2011)



東水路北企業護岸の損壊 (2011)



潮見埠頭のエプロン陥没 (2011)

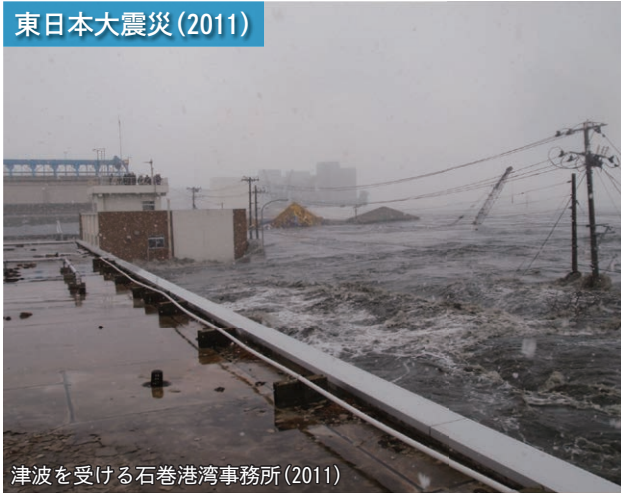


目和埠頭の岸壁の沈下 (2011)

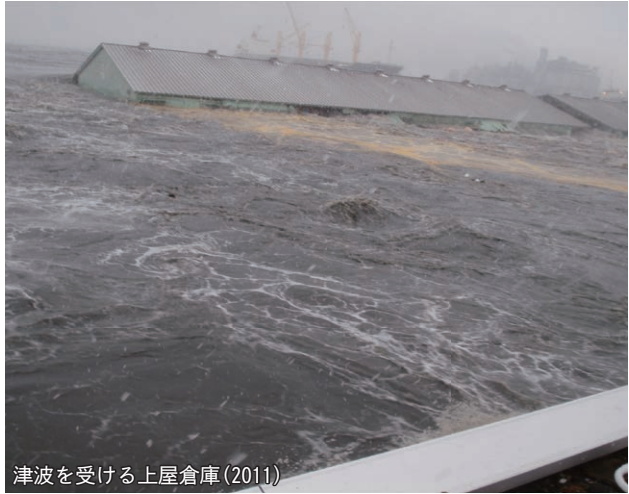
1999~2011

Ishinomaki 50th

東日本大震災(2011)



津波を受ける石巻港湾事務所(2011)



津波を受ける上屋倉庫(2011)



引き波後の石巻港(2011)



引き波後の上屋の状況(2011)



津波の被害を受けた
中島1号上屋(2011)



目黒埠頭に漂着したガレキ(2011)



津波により中島埠頭へ打上げられた船舶(2011)



被災後の石巻港湾事務所(2011)



津波で打ち上げられた貨物船の引き上げ回収作業(2011)





被災者支援のため入港した「テクノスーパーライナーOGASAWARA」(2011)



浮遊物の封じ込め(2011)



作業船による原木の引き上げ作業(2011)



作業船によるトレーラーの引き上げ作業(2011)



作業船による荷役機械の引き上げ作業(2011)



(釜北線)



(東海岸線)

自衛隊による臨港道路一次啓開作業(2011)



(釜北線)

臨港道路の二次啓開作業(2011)



雲雀野埋立地の造成工事(2012)



第11回港湾感謝祭(2013)

第11回港湾感謝祭「しらせ」寄港(2013)



(雲雀野中央線)



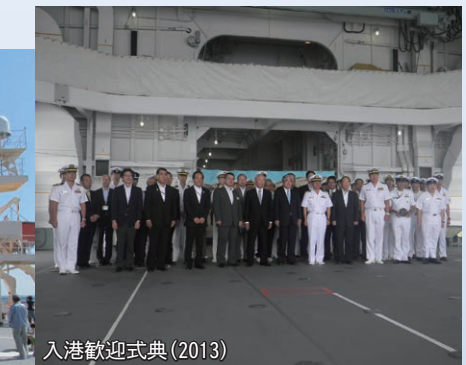
震災廃棄物を埋め立てるための護岸工事(2012)



(東一号線)



「しらせ」船内見学(2013)



入港歓迎式典(2013)



クルーズ船「オーシャンドリーム」寄港(2013)



歓迎式典(2013)



「オーシャンドリーム」をお見送り(2013)



入港するクルーズ船「ふじ丸」(2013)



クルーズ船「ふじ丸」寄港(2013)



入港する「海王丸」をお出迎え(2014)



大盛況だった船内見学(2014)



「海王丸」のセイルドリル(2014)



第13回港湾感謝祭(2014)

ライトアップされた「海王丸」(2014)

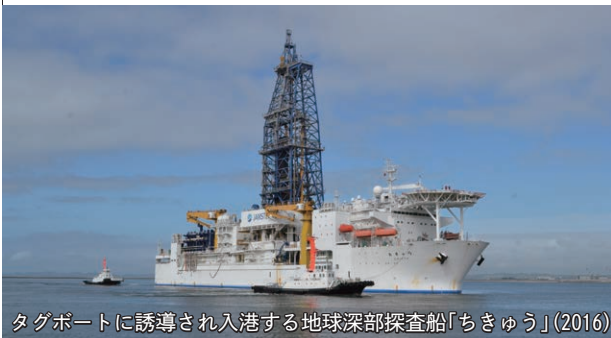


木材チップ専用船「PRO GRACE」が母港を石巻として入港(2015)



第15回港湾感謝祭(2016)

ライトアップされた地球深部探査船「ちきゅう」(2016)



タグボートに誘導され入港する地球深部探査船「ちきゅう」(2016)



多くの来場者で賑わう会場(2016)

入港歓迎式典(2016)



クルーズ船「にっぽん丸」寄港(2017)



大漁旗でお出迎え(2017)

石巻港を出港(2017)



タグボートの準備(2017)



挨拶をする石巻市長(2017)



入港する「にっぽん丸」(2017)



雲雀野地区に建設されたバイオマス発電所(2017)



石巻港開港50周年記念式典(2017)

式典会場の様子(2017)

2015~2017

Ishinomaki 50th



クルーズ船「ばしふいっくびいなす」寄港(2017)



歓迎式典(2017)



ゆるキャラもお出迎え(2017)



花火で「ばしふいっくびいなす」をお見送り(2017)



南防波堤の工事風景(2017)



石炭船と原木船の同時係留(2017)



日和山公園から望む石巻港(2017)



川村孫兵衛像(2017)



海洋総合実習船「宮城丸」からの餅まき(2017)

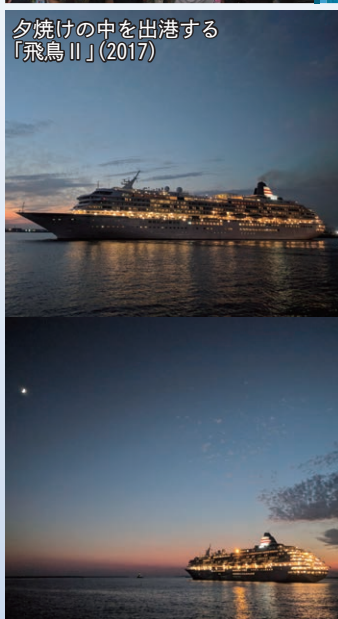


乗船見学の準備をする「新青丸」(2017)

第16回港湾感謝祭(2017)



入港する巡視船「くりこま」(2017)



夕焼けの中を出港する「飛鳥II」(2017)



(河南鹿嶋ばやし)

出港セレモニー(2017)

(伝統芸能「はねこ踊り」)



初寄港したクルーズ船「飛鳥II」(2017)



「飛鳥II」をお見送り(2017)



大漁旗でお出迎え(2017)



入港歓迎式典(2017)



女川若獅子会による獅子振り(2017)

I. 石巻港のあゆみ



石巻港の歴史 P17

大規模災害を乗り越えて P33

三港統合と新たな取り組み P101